
キョンからキョン子

真・二太郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

キヨンからキヨン子

【Nコード】

N4269BA

【作者名】

真・二太郎

【あらすじ】

朝起きると身体が女体化していた。またハルヒの仕業だな。やれやれ…どうしてこんな事になったんだ。果たしてキヨンは男に戻るのか!!
いや、戻ってくれないと困る!

プロローグ

「むじ……。」

やはり冬は寒い。どんなに着込んでも、布団をかぶることもいや、夜寝ているときは良いのだが、

朝この天国ふとんから地獄ゆかに足を預けるのは勇気がいる。

まあしかし、学校には行かねばなるまい。

仕方ない。起きるとしよう。

ムク、サラ……。

ん、何かいつもより首元が寒くないような……

ああ、髪か。

……Why?

俺はそこまで髪をのばした事は1度たりともない！

一夜にしてのびたのか？いやそんなはずはなかるつ。

「あれ、キヨンちゃん、起きてる〜珍し〜！」

ハア…朝っぱらからのその元気、どこから湧き出るのだ。

こっちは考えることがあるというのに。

「こら、勝手に入るな。だいたい ちゃん を付けるなちゃんを。」

妹は相変わらずの笑顔で

「え〜〜！だってキヨンちゃんの友達も ”ちゃん” を付けてたじゃんー？」

そんな事言われた覚えはない。

大体俺の性別を考えろ。俺は男だぞ。

……………なんだ、この間は。

「キヨンちゃんは女の子だよ？…この前だってあの時だって、

みんなキヨンちゃんいってたもん！」

聞き間違えか？

俺が女の子？冗談だろう？

……………そういえば髪長いし、声もたかくなっていたような気が…………

とここまで考えた瞬間、身体が勝手に動いていた。

まさかそんな事は、

無論場所は鏡の前、いつもの俺よ、居てくれ！！

これ程神に祈った日は無いだろう。

お釈迦様、イエス・キリスト様、大仏様、仏様！！

鏡の前に居たのは、長い髪を垂らし焦った顔つきで、小顔の女の子だった。

マジか……

これが俺なのか？

幾らか背が縮んでいるが、確かに顔のパーツが似ているが……

「一体何故なんだ？と言うか誰がやったんだ？」

まあ、大方見当はついているが。

なあ、ハルヒ………

何か俺、悪いことしたか？

ところで何故俺がそこまで驚かないかというと、他にもハルヒと関わって色々な体験をしたからだ。

宇宙人、未来人、超能力者と面識を持ち、

閉鎖空間なるもので十分自分の肝を冷やし、

長門（宇宙人）がバグって創り出した世界で一人ぼっちにもなった。他にも………まあ様々あったのだが、

「…直接自分自身が変化した事は初めてだな。」

とにかく、だ。

部屋に戻ろう、気がつけば、まだ午前5時前だ。

少し冷静になってから考えるとしよう。

プロローグ（後書き）

初です！新人で、操作も良く分かって無いのですが宜しくお願
いします！

（今は学業の身なので、掲載は時間がかかることをお許しください。
）

第1話

世界時空改変？（前書き）

今日は、ポツポツ書いてきます。

第1話

世界時空改変？

ふう、少し冷静に分析してみようか、
珍しく机で真剣に文字を紙に書いていった。

？俺が朝起きた時から身体が女体化していた。

？妹はこの変化に気付いていない。(ということは、自分以外の人間は気付いていない？)

？はその通りのままだが、？が本当に起こったなら、また一人になるのか。

.....

今の時間、長門に電話したら、何と言っただろうか。

携帯電話を開き長門に電話する。

長門よ〜頼む！いつもの長門でいてくれ！

ブルブル カシヤ

「何？」

1コールで繋がった。常人ならこんなこと出来んだろう。
いつもの長門とみて間違いない。

俺は紙に書き出した内容を細かく説明した。

「長門、お前は俺が男の時だった頃の記憶を持っているか？」
「何も」

「じゃあ、今回電話が掛かってきたことは……」
「意外」

……なんてこつた。
情報なんチャラ体でも観測出来なかったのか。

「今すぐ、うちに来て。」

ブツッ

勿論、長門が言うのであれば行くに決まってる。
が、どんな服装で行こうか…。

チャラリラ〜？

「制服で来て。 長門」

………テレパシーでも有るのか長門よ。
まあ、ともあれ着るものは決定した。

が、皆さんお気づきだろうか。
古泉なら「ここで1つ問題が浮上します」とでもいうだろう？

今の俺は”女の子”なのだ。

当然の様に

制服のブレザーが消えて代わりにセーラー服が掛かっている。

……これを着ろってか。長門よ……。

20分後、

まあ、何とか着れたようだ。

「やれやれ……」

めんどくさい事になってしまったもんだ。

と言つか歩きづらいな、このスカートと言つものは。

なにがともあれ長門の家に行く事が疑問を暴いてくれるだろう。

俺は長門の家に足を進めた。

第2話

世界時空改変？

いつ見ても、豪華なマンションだよな。

どうやってお金を創り出したのだろうか……

という疑問を抱きつつ、インターホンを押した。

「俺だ」

「入って」

ガチャリ

目の前のはいつもの長門がいた。

「奥に」

廊下の奥に進むといつもの様に部屋の真ん中にテーブルがある。

「座って。」

なあ、長門、これはどう言う事だ？

「詳しくは分からない。」

「私もあなたの電話を受け取り気付いた。」

真剣な眼差しで

「情報統合思念体も混乱している。しかし、私個人では推測は出来る。」

「あなたの身体の1部分の遺伝子情報と地球の平均的男子遺伝子構造が同じ。」

「つまり元は男。」

ああ、分かっている。

自分でも昔から女だったという記憶は持ち合わせていない。

「情報統合思念体は、これは世界時空改変の可能性が高いと見ている。」

世界時空改変？お前がやった感じののか？

「厳密にはそうではない。時空と時空が合わさり、union反応が出ている。」

これは超自然的な事。しかし、今回は少し普通の現象と違う。普通のunion反応はすぐに消滅・中和する。しかし、あなたの場合それを取り込んでしまった可能性がある。

取り込むと普通の事でない生きたままの遺伝子レベルの改変と、それを合わせようとすると、

現在時空変動が起こり、世界の人の記憶に干渉する。」

長門、よく分かん。

長門はさらに細かい話を続けたが、簡単に言うと、

世界にはいくつかの時空が存在し、

時に時空が合わさることが有るのだそうだ。

するとその時空が互いに干渉しあい、人の記憶や性別などを変えてしまつらしい。

しかし、普通はあり得ない事だそうだ。

「何故、俺が干渉してしまったんだ？」

「それはあなたの情報位置の座標と時空上の座標が狂わされたため。」

「

なぬ!?

そいつはどここのどいつだ!!

「涼宮ハルヒ」

……………ハア。

もう勘弁してくれ。

長門よ、どうすれば治る?この変化した俺は。

「涼宮ハルヒがそうした原因を除く事で解消する。」

ハルヒの気分次第か。

そう。と行って、立ち上がった。
そうか、学校に行く時間か。

ん？なんだこの寒気……

「おい、長門」

長門が振り向いた。

「何？」

「俺、いつも部活で何やらされてんだ？」

長門は眈々とそして事細かに教えてくれた。

第2話

世界時空改変？（後書き）

皆様、読んでいただきありがとうございます！
御座います！
頑張って書いていきます！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4269ba/>

キョンからキョン子

2012年1月13日07時45分発行